



さわやか



対話的な学びの授業が、確実に充実しています

子ども達の集中力、意欲、協力などが1時間を通して持続し、頭をフル回転させた考え続ける授業でした。昨日の大塚先生の授業は、「対話」の目的や、対話を充実させるツールの活用などにおいて、「工夫して授業を創った」というものでした。

既習を振り返る自分との対話や、学習コーナーを使った教材との対話、自分の考えを説明する友達との対話、全体で考え方を比較・検討する友達との対話などにおいて、子どもの思考をどう変えたいのか、高めたいのかの目的を明らかにして、話し合いを充実させるツールを工夫していました。

「対話的な学び」を、教師がどう創るかについて、確実に進展・充実していると感じました。



「対話的に学ぶ」子ども達



学んだことを生かす



解き方を説明する



解き方を比較・検討する



思考をフル回転させる

子ども達が明るくて、落ち着いた雰囲気。担任の笑顔が一番素敵

昨日、喜多州市学校教育アドバイザーの神田優子先生に、授業を参観いただいたり、私の相談にのっていただいたりしました。神田先生が一番感動し、ほめてくださったのは、タイトルの内容でした。

以下に、神田先生から指導いただいたことを記します。

- 各教室の雰囲気にあたたかさを感じました。子ども同士の通じ合い、助け合いを感じました。
- あいさつが素晴らしい。自分から先にあいさつしてくる子が多くて、また、「校長先生、こんにちは。」と、相手の名前を付けてあいさつしていることに感心しました。表情もいいです。相手の目を見てしっかりあいさつしていました。
- 整理整頓で、心を整えていました。廊下のフックに運動着袋など、きちんとかけてあって素晴らしい。普通なら、2、3個おっこっていたり、がしゃがしゃしたりしてるのが普通です。
- ノートや作品への朱書きが、質、量ともに素晴らしい。一人一人に心を込めて書いてました。
- ノートの文字が整っていました。正しくいねいにノートをとる姿が素敵でした。先生が、どの教科でも、めあてを設定していました。まとめも。
- ノートやファイルで、自分の成果を「見える化」していました。目に見える形にして、達成感を持たせる工夫が素晴らしいです。
- 担任の笑顔が一番素敵に感じました。授業の中で、急がないで子どもの発言を待つ姿勢がありました。

単に人が集まっている状態を「烏合の衆」といいます。目指す方向を同じくした人の集まりを「集団」といいます。本校の先生方は、ベクトルを同じくし、そこに進むための知恵を出し高められています。神田先生からは、その具体的な姿や様子をほめていただいたと思います。

来週の公開研究会には、44名の参加者があります（本日現在）。子どもの姿と共に、我々塩川小教職員のよさも感じ取っていただきたいと思います。

笑顔が素敵です。

